特集

ケーブルテレビでつなぐ人とまち

やすぎどじょっこテレビ開局10周年

平成23年10月に開局したやすぎどじょっこテレビ（以下、どじょっこテレビ）。地域に根差したメディアとして、地域情報や防災情報、公共機関の広報の提供など、暮らしに直結する情報発信のネットワークとしての役割を果たしています。

今号では、開局10周年を迎えたどじょっこテレビを特集。魅力的な番組づくりに欠かせない制作現場の裏側やスタッフの思いなどをお伝えします。

個と地域をつなぐケーブルテレビ

今年で開局10周年を迎えたどじょっこテレビ。市が整備した光ファイバケーブル網を利用し、テレビ放送、インターネット、固定電話、携帯電話（スマートフォン）等の各種サービスを提供するケーブルテレビ局です。

こうしたサービスの提供により、どじょっこテレビは私たちにとって、とても身近なものとなっています。9月末時点の総加入世帯数は7，146世帯。市内の約5割の世帯が視聴しています。

澤田真秀さん

業務は大きく分けて営業、技術、制作に分かれています。この内、制作部門は一人で取材、原稿作成、編集とすべてをこなします。「ディレクター」「カメラマン」「音声さん」といった分類はありません。少人数で取材や番組制作を行うため、一人一人が全ての役割をこなす必要があるのです。

開局当時から番組制作に携わる澤田真秀さん。テレビ離れが進む中、ケーブルテレビにしかない強みがあるといいます。

「広範囲の情報を扱う他の放送局では、毎日のように特定の地域の話題を放送することは難しいです。しかし、私たちは地域のメディアだからこそ、地域の話題に特化することができます」と、他の放送局との違いを話します。

「ユーチューブやSNSは、個と個がつながるメディア。一方、個と地域、地域と地域をつないでゆくのがケーブルテレビの役割だと思っています」とケーブルテレビの将来を見据える澤田さん。地域に根差した情報を発信し続けます。

制作スローガンは「やすぎがスキ♥」

「どじょっこテレビは、市民のホームビデオとしての側面が喜ばれていると思いますが、今後は報道力も高めていきたいです」と話すのは、番組制作課に所属する高橋果菜さん。

大学で映像を学んだ後、製作会社などを経て、どじょっこテレビに入社。「まるっと安来」のネタ決めや原稿のチェック、新しい企画の立ち上げ、構成や演出など、番組制作の屋台骨であるデスクとして業務にあたる他、アナウンサーとしても活躍します。

高橋さんは、ケーブルテレビの特徴として、視聴者との密接な結びつきがあるといいます。

「安来市を地域の皆さんとともに盛り上げていきたい。〝やすぎがスキ〟をスローガンに、日頃の取材で積み重ねた信頼があってこそ、地域の皆さんが貴重な情報を提供してくれていると思っています。また、年度末のアンケートで頂いたご意見を大切にし、次年度の番組づくりに反映させています。

高橋果菜さん

地域の皆さんに支えられ、育てて頂いていると感じます」と視聴者との関係性を口にします。

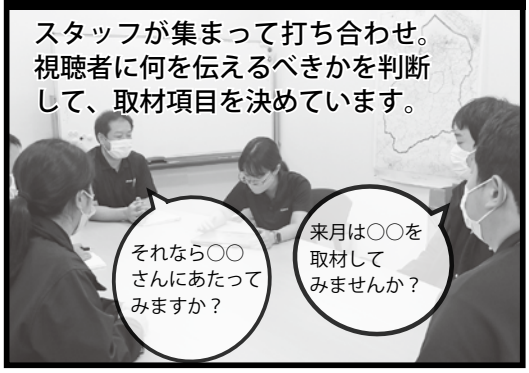
今後は市民を巻き込んだ番組づくりに力を入れていきたいと話す高橋さん。「どじょっこテレビを市民が主体的に情報発信できる場として提供し〝見る〟だけでなく、一緒に〝作る〟メディアとして楽しんでもらいたい」と笑顔で話します。

市民が主役の「どじょっこテレビ」。新たな取り組みに注目です。

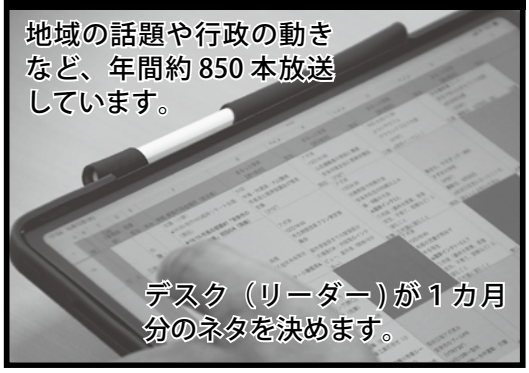
まるっと安来ができるまで

安来の話題をまるっと集めて送るニュース&トピックス番組「まるっと安来」。開局当時から続く、接触率（※）第一位の人気番組です。今回どじょっこテレビの全面協力のもと、取材項目の決定から本番までをレポートします。※接触率…視聴者300人のアンケート結果から算出したもの。

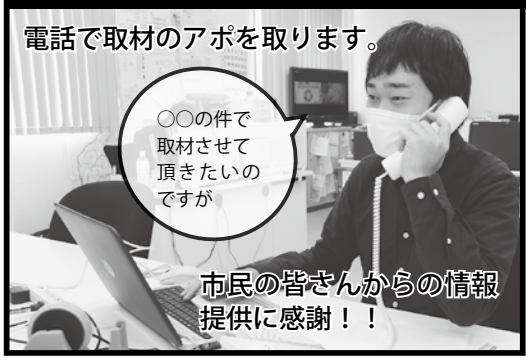
❶ニュースの内容決め



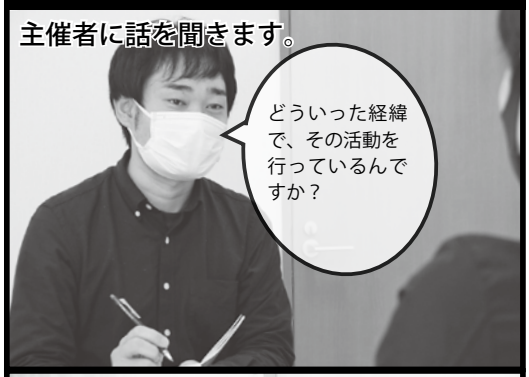
❷スケジュール決定

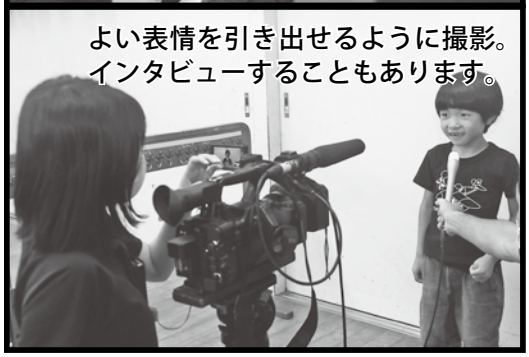


❸取材依頼

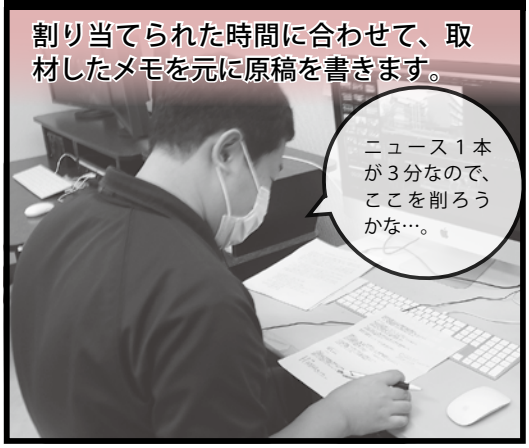


❹取材開始





❺原稿作成



中国地区番組アワード入賞

日本ケーブルテレビ大賞番組アワード。地域から発信される映像文化の発展とコンテンツ制作力の向上を目的に、ケーブルテレビで放送された優れた作品を表彰しています。

「やすぎがスキ♥」CM部門で優秀賞

「やすぎがスキ♥」が平成30年5月23日にCM部門で優秀賞を受賞。取材先などで市民の皆さんに出演してもらい、放送番組内などで配信しています。このフレーズは市民に分かりやすく、親しまれるキャッチコピーとして定められました。地域愛や誇りなどを持ってもらいたいとの願いが込められています。

ふるさとへの誇りや地域の一体感を生み出し、地域の発展のために貢献する姿勢が評価されました。

❼ディスク作成

出来上がった映像は最終的にディスクと呼ばれるものに書き出されます。

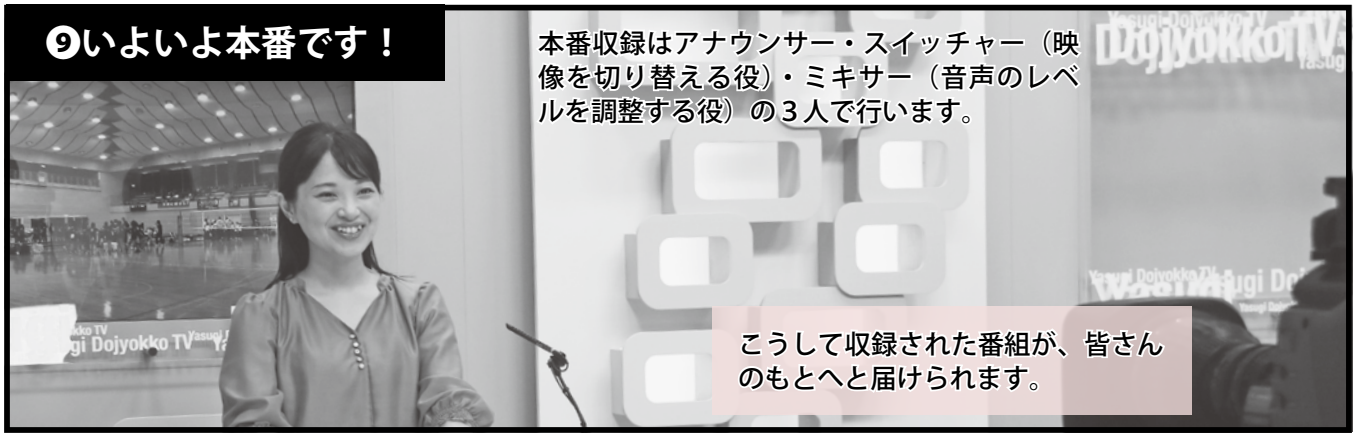
❻映像編集

撮影した映像をパソコンに取り込み、編集します。

❽収録

番組の進行に合わせて画面を切り替えたり、音楽を入れたりします。

❾いよいよ本番です！



本番収録はアナウンサー・スイッチャー（映像を切り替える役）・ミキサー（音声のレベルを調整する役）の３人で行います。

こうして収録された番組が、皆さんのもとへと届けられます。

市広報番組 企画番組部門で受賞

市立図書館の魅力を紹介する市広報番組「図書館へ行こう！」。どじょっこテレビが制作し、２月１日に中国地区番組アワードの企画番組部門で審査員特別賞を受賞しました。

利用者の減少が進む「安来市立図書館」の隠れた魅力・知的好奇心を刺激する講座・特典・新たな利用方法などを紹介し、魅力ある施設であることをＰＲしました。

地域を見つめ時代を描写した点が、高く評価されました。

Voice

視聴者の皆さんに聞きました

安来に暮らす市民の声や笑顔、頑張っている姿などを番組に取り上げてきた「どじょっこテレビ」。「まるっと安来」をはじめとする自主制作番組には多くの市民が出演。「やすぎがスキ♥」には10月末時点で延べ１万6840人が登場しました。どじょっこテレビへの思いや期待することなど、視聴者の皆さんの声を聞きました。

埋もれた地域活動にスポットを

ケーブルテレビといえば、やはり地域に密着した番組。まちの情報や各地区のにぎわい、さまざまな伝統文化などを知る手段として、どじょっこテレビをとても大切にしています。

普段出会う機会が少ない友人や知人がテレビに映ると、その様子をうかがうことができて、とてもほっとした気持ちになります。

また、好きな番組は、安来のゆかりの人物を紹介する「安来人物伝」。名前しか知らなかった人がどんな人物だったのか、その人がどのような人生を歩んできたのか、とても興味深く見ています。そして、面白い内容の時には遠くの親戚や知人にも宣伝しています。

一方、文字放送で流れる訃報などは、お世話になった方々の近況を知る大切な情報手段でもあり、日ごろから注意して見ています。

今後も地域に密着した番組を作ってもらいたいです。特に埋もれている地域活動にスポットを当ててもらい、取り上げてもらえるとうれしいです。

森﨑悦子さん

各世代のニーズに合った番組に期待

市からの広報紙やチラシなどでまちの情報を知ることができますが、写真や文章だけでは伝わり切らないものがあると感じます。テレビでの情報は、とても分かりやすく、子どもたちのいきいきとした姿を見ることができます。

なかでも「まるっとキッズ」「うたってキッズ」は、保育所や保育園、幼稚園で活動する子どもたちの様子を見ることができるため、家族で楽しんで見ています。ホームビデオでは撮影しきれない所まで撮影されていて、その場の雰囲気もよく分かるので大好きな番組です。

コロナ禍の緊急事態宣言時には外出を自粛。まちのイベントが中止になったり、子どもたちの活動に参加できなかったりしました。そんな中、まちの情報を放送してもらい、そのありがたさを改めて感じました。

どじょっこテレビには、今後も視聴者に寄り添った、各世代のニーズに合った番組づくりを期待します。

▲カメラの前でポーズをとる子どもたち。番組収録時の様子。（安来保育所）

▲子どもたちが元気いっぱい季節の歌やダンスを披露する「うたってキッズ！」。

仲佐淳子さん、陽翔くん

地域をつなぐ、市民参加の番組づくり

情報科学高校生徒会の皆さんにインタビュー。

市内の高校生が自分たちの通う学校を楽しくリポートする「High School Days!!」。情報科学高校と安来高校の生徒が月替わりでどじょっこテレビと共同制作しています。

「まるっと安来」のワンコーナーとして、生徒会の活動紹介や部活動の紹介、学園祭の準備の様子など、内容は高校生が自由に企画し放送しています。

閉鎖的になりがちな学校生活。その様子を生徒自ら発信することで、地域の人に自分たちの活動を知ってもらえるきっかけになっています。

初めての収録時には、10分の放送枠に内容をおさめないといけないため、スケジュールを組むのに苦労したという生徒たち。撮影回数を重ねるうちに、今では５～10分の事前打ち合わせで、本番の撮影に臨むことができるようになりました。また、自ら取材をすることでコミュニケーション能力の向上にもつながったといいます。

◀自らカメラやマイクを持ち、リポートする情報科学高校の生徒たち。

この番組制作にかかわることで、知り合いや同級生の保護者から“がんばってたね”と声をかけられることも。どじょっこテレビは、地域に根差したメディアツールとして地域と学校をつないでいます。

人と人、地域と地域をつなぐ架け橋になるために

山陰初の有線テレビ局として、昭和61年に松江地区で放送事業を始めた「山陰ケーブルビジョン株式会社」。その安来局として平成21年から安来市が敷設した光ファイバケーブルを活用し、有線テレビ放送と高速通信サービスの提供事業者となりました。

以来、安来市民が安心安全に暮らせるよう行政告知端末の放送サービスを提供し、皆さんとともに歩み続けています。

７月に起きた大雨災害では、いち早く現場に向かい、被災状況や避難者の声など地域密着の強みを生かした情報を提供しています。

また、その要となる社員は地元採用を心がけており、多くの社員は全くテレビやネットとは関係ない学校の卒業生です。

入社後に研修や先輩からの指導を通じて、取材方法や機材の扱い方、編集作業および、通信機器の設定など放送やネットに必要な知識や技術を習得しています。

やすぎどじょっこテレビでは、今後も社員一丸となり、これまで以上に愛される放送、通信事業者を目指します。市民の皆さんと一緒に「やすぎがスキ♥」をスローガンとして人と人、地域と地域をつなぐ架け橋になるよう努めていきます。

木村英孝局長

問い合わせ
やすぎどじょっこテレビ
☎２２-５０５０